

令和 7 年度(上半期) 事業所訪問について

男女平等オンブドの事業所訪問は、平成 19 年度から実施しており、令和 7 年 9 月末で 365 事業所となりました。平成 24 度からは、年間 20 事業所を訪問するという計画を立て、事業所における男女共同参画について状況把握をする
と共に、女性の就業分野拡大、役職登用、男性の育児休業取得率向上等について
周知啓発を継続して行っています。

昨年度までは、コロナ禍から事業所訪問をさせていただくことが難しくなり、
書面にて質問に答えていただく形も取り入れていました。しかし、今年度は、越
前市の中小企業等未来開拓サポート資金融資制度(利子補給)を利用するための
要件として、「輝く女性活躍応援団行動宣言への賛同 登録事業所」が対象条件と
なっていることもあり、申請事業所については全て訪問させていただきました。

訪問した事業所は 11 事業所で、規模については、200 人から 300 人未満
が 1 件、50 人未満が 10 件でした。そのなかで、越前市輝く女性活躍応援団へ
は、全事業所から賛同をいただくことができました。

全体的な感想としては、新型コロナウイルスが、落ち着きを取り戻しつつある
なか、残業時間削減等の働き方改革に、積極的に取り組んでいる事業所が増加し
ている点、半面、インターネット通販等の事業所では、カスタマーハラスメント
が問題になっている点が、印象に残りました。そして、定年後も再雇用として働
き続ける労働者が増加し、再雇用定年を 75 歳に延長する事業所も多数ありまし
た。労働者全体では、管理職の地位にある女性は依然として少ない状況にありま
すが、女性の地位向上について、将来像に位置付けている事業所も見受けられま
した。こうした貴重なご意見は、今後の男女共同参画の推進を図るうえで、参考
にさせていただきます。

その結果、「越前市輝く女性活躍応援団」の賛同事業所は平成 30 年設立時、
市内 126 事業所でしたが、今年度、新たに 13 事業所から賛同をいただき、令
和 7 年 9 月末で 221 事業所となりました。

今後とも、「越前市輝く女性活躍応援団」への賛同を推進し、さらなる女性活
躍の支援と企業のイメージアップを図りながら、事業所訪問を行っていきます。

なお、訪問にあたっては、訪問の趣旨を説明し理解を求めるとともに、この訪
問が事業所にとってメリットとなるよう、参考になると思える情報の提供や雇用
管理上の助言等に努めました。

どの事業所も協力的であったことに感謝しています。

*** 各事業所の状況、感想等について**

- ・社長の考え方が、すっきりとしていて、心地よかった。10年後には、社長を退こうと考えているので、すでにその準備のために、社長室長を配置し、準備段階とのことであった。
- ・カスハラについては、今までの事業所訪問で、初めて現実を知らされた感があった。企業は、労働者を守るために対策を取らなくてはならない状況が頻繁に起きているのだと推察された。
- ・社長が、発泡スチロール製品のネット販売に関して、かさばるし、注文があるか迷ったが、需要が多くて驚いていると話されたのが、印象に残った。
- ・社長の経験で面白い話をされた。関西と関東の違いを話され、関西は、取引が決まるまでは、口も悪いし値切りもあるが、その後は必ず約束を守る。しかし、関東は、最初は腰が低くあたりも良いが、取引が決まってからも何やかんやといちゃもんを付けてくる。興味深い話であった。
- ・最近の建築業界について社長が話された。
資材の高騰で、以前は2,000万円で建てられた家が、現在は3,000万円でないと建てられないのが現状である。銀行も容易にお金を融通してくれない。社長のような世代は、孫子の代まで住むことのできる家を建てたいと思っていたが、今の若い人達は、自分達が住みやすい家を建てたいと考えるので、家に対する価値観が変わってきている。
以前は60代で退職して、その退職金で自分の家を建てたいとの考えがあったが、現在の60代は、何が起きるか予想のつかない現状を危惧して、貯蓄を優先し、お金の消費を控えているのではと考える。
- ・派遣労働者・外国人労働者が、全体の9割以上を占めている会社なので、管理が大変だろうと察するが、女性の管理職登用にも積極的に取り組んでいる。
- ・総務・事務職の残業は、女性は基本0時間、男性は1日1時間を目指している点は、素晴らしい。
- ・外国人労働者はよく働いて明るい。その影響で、日本人の派遣労働者が、辞めなくなったとの話は、相乗効果だと思った。
- ・トラックも以前は1千万円で購入できたが、倍になり、物価高騰が痛いと話された点が、印象に残った。
- ・休息時間の1時間は、労働者がしっかりとれようにしている。無理をすると、必ず後でつぶれるので、残業もなしの状態にして、無理は絶対にさせないというのが、労働者に対する会社の方針とのことである。
- ・あまりAIが進むと、人間がAIに使われることになるかと危惧されているのが、印象に残った。